

本時のねらい

- ・それぞれの句を読み取り、作者の思いを知る。
- ・ICT 機器を活用することにより、「集中して課題に取り組む」、「句を適切に読み取る」。
- ・情報をあえて隠し、直感的に表示できることから、より深く読み取る。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・アプリを使うことで、直感的かつ素早くに操作しながらビジョントレーニングに取り組むことができ、集中力が高まる。
- ・keynote を使い、暗唱の練習をしたり、写真を用いたりしてそれぞれの句の理解を深める。
- ・課題の見える部分を限定することにより、集中力が持続する。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・視野トレーニングアプリ
- ・keynote

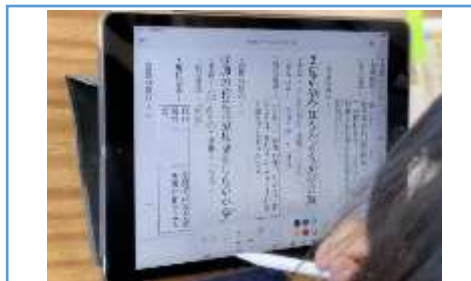
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョントレーニング (アプリ) 【写真 1】 ・おくのほそ道の暗唱テストに向けての練習をする。隠された単語を予想しながら、暗唱を進めていく。わからない場合は、画面をタップして単語を表示させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリを使いビジョントレーニングを行うことで 集中力を高める。毎回違う順番なので飽きずに行える。 ・keynote で一部隠したものを使用する。わからなかったらめくって確認していく。覚えた部分はどんどん隠していき、それが増えていくと自信につながる。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある代表的な 5 つの句の基本的な構造と背景にある情報を確認する。 「季語」、「季節」、「表現技法の確認」、「現代語訳」、「作者の思い」のそれぞれについて空欄になっている部分に自分の考えを記入し、それぞれの句がどのような季節や場所、どのような思いで読まれたものかをイメージする。 ・整理した情報から、それぞれの句が読まれた背景をもとに句に親しむ。 【写真 2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用すると、以下のような改善が見込める。 ①教材の必要な部分のみを表示したり、色分けをしたりすることにより、課題の焦点化を図ることができる。 ②教材の一部を隠して提示することが容易である。かつ、直感的に内容を確認できることから、より深い読み取りにつながる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの句について理解ができたか確認する。句に合った写真を選ぶ。 【写真 3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用することで、振り返りの資料となる写真等の提示が容易である。加えて、生徒も手元で写真を拡大表示等しながら、学習内容をじっくり反芻することができる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】ビジョントレーニングの様子



【写真 2】keynote を使用した句の読み取り



【写真 3】keynote の写真を使用したまとめ

児童生徒の反応や変容

・タブレットの画面にワークシートを表示する際は、めあての場所を拡大表示して視覚情報を減らすことによって、課題に集中して取り組めた。また、振り返りの課題についても、写真の視覚的な効果により句と情景を結びつける事ができ、深い振り返りとまとめとなった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・集中力を持続させづらい生徒において、拡大表示などで、見る範囲を絞ったり、色分け等の視覚支援により、課題に最後まで取り組むことができた。文字とイメージを紐づけることによって、理解を深めることができた。